志村区長と商連若手との懇談会

平成24年11月21日午後6時、ホテルカデンツァ光が丘において、志村区長と商連若手との懇談会を開催。商連60年の歴史のなかで、はじめての企画です。テーマは、「地域の特性を生かした魅力ある商店街づくりを考える」。志村区長、宮下部長、米課長には懇切丁寧な応答を頂き、商連若手の発言も真剣で熱気に溢れていました。懇談会の内容は、次の通りです。

挨拶

司会者（江村）　ただいまより、「区長と商連若手との懇談会」を開会いたします。申し遅れましたが、私は商連副会長の江村健二です。青年部長を兼務しています。その関係で司会を務めることとなりました。よろしくお願いいたします。はじめに、篠利雄会長がご挨拶申し上げます。

篠会長　本日はお忙しい中、志村区長には時間をおとり頂きご出席頂きました。厚く御礼申し上げます。

私どもは、これからの区商連を若い人達で大いに盛り上げてもらおう、と考えております。

区商連は、昭和42年8月、青年部をたちあげました。当時の青年部の主要な活動は、各商店街を訪問して活動内容を取材することでした。野球大会、ボーリング大会、スケート教室といった活動も行っていました。そうした活動を通じて、会員同士が親睦をはかるという時代が続きました。

その後、野球大会は早朝野球に変わりました。また、店舗の改装が思うように進まないので、これを促進するため商店コンクールを開催した時代もありました。

昨年12月、各商店会に呼びかけ、若手に集ってもらいました。そして、本年2月、「練馬商人会」という名称で、盛大な交流会を開催しました。その実行委員が、本日お集まりの皆さんです。小泉さんにも参加して頂き、いろいろアドバイスを頂きました。実行委員は、まさに商店街の将来を担う皆さんです。あらゆる面で活躍して頂きたい、という思いがあります。

そんななかで、今回、志村区長を囲んで懇談会を開かせて頂くこととなりました。60年の商店街連合会の歴史の中でも初めての企画であります。宮下部長、米課長にも、貴重な時間をさいて頂いたわけです。改めて、厚く御礼申し上げます。

今回のテーマは、「地域の特性を生かした魅力ある商店街づくりを考える」とさせて頂きました。練馬商人会実行委員会は毎月、活発な議論を積み重ね、商店街再生、魅力ある商店街づくりについての共通認識を積み上げてきました。今も、いろんな面から検討を行っているところです。

司会者　ありがとうございました。次に志村区長、よろしくお願いいたします。

志村区長　本日はお招きを頂き、ありがとうございました。心から御礼申し上げます。

今回のテーマは、「地域の特性を生かした魅力ある商店街づくりを考える」ということです。私自身も、商店街あるいは区商連の発展を見続けていきたいと思っています。あわせて、商店の発展を心から望んでいます。

私が練馬区に奉職したのは、昭和30年のことでした。そして、最初に係長に昇格したのが商工係長です。ですから、私は商店街の皆さんとは非常に縁が深いわけです。当時は、まだ練馬区役所が練馬本庁舎、石神井庁舎と二つに分かれていた時代でした。石神井庁舎にも経済課商工係があり、私は石神井庁舎のほうを担当していました。しかし、商工係長をやったのは数か月で、昭和40年になりますと練馬区に部制が敷かれ、私は区議会事務局の議事係長になりました。短い期間ではありましたが、その最中には東京オリンピックがありました。あの頃は、商店街にも若い従業員が随分いました。その方たちが昼間テレビを観ることができず、オリンピックの行方がわからなかった。それで、バスを仕立てて石泉地区の商店街の店員さんをつれて、会場を見学してまわったことがありました。そういった形で、私は非常に商店街とはつきあいが古いわけです。

その後、区長になる前は企画部長として、予算を立てる仕事をやっていました。商店街の皆さんからいろんな要望を頂きながら、仕事をしてきました。区長になってからは、会長や幹部の皆さん、特に篠会長には大変お世話になっています。

今日のテーマの「地域の特性」ですが、どんな分野でも特性というものがあります。それぞれの地域にあった開発の仕方が大事だと思います。商店街の振興は、一つの基準はありますが、その基準をいかしつつも地域特性にあった発展を考えなければならないと思います。

昨年の3月11日、東日本大震災が起きました。それを契機に、やはり地域がつながらないといけない、地域の絆といったことがいわれるようになりました。地域の絆を強化することに関して、もともとある商店街、町会・自治会が中心となり大きな力を発揮したと思います。とりわけ商店街の皆さんは、商いのほうで大変お忙しいなか、地域のためにいろんな催しをやってくれています。それが地域の発展、絆の強化の礎になっていると思います。

私も、商店街の幹部の皆さんといろんな形でおつきあいさせて頂いていますが、幹部の方たちの中には、「若手が育ってくれない」「私たちも引退したいんだけど、跡をついでくれない」という人がいます。町会・自治会も同じですね。今日は若手の皆さんとの懇談会ということですが、若手というより幹部ですよね。だから皆さんには、これからの商店街を、新しい発想でまとめて頂きたいと思います。今までとは一味違う商店街に発展させて頂きたい。それぞれ要望もありましょう。でも、それをとりまとめて発展に結び付けるのが今日お集まりの皆さんだと思います。今日の話をよく伺って、行政にいかしていきたいと思います。

練馬区長
志村　豊志郎　様

産業経済部長
宮下　泰昌　様

商工観光課長
米　芳久　様

練馬区商店街連合会会長
篠　利雄

練馬区商店街連合会監事
小泉　徳明

副会長（青年部長）
江村　健二

紹介

司会者　ここで、区幹部職員の皆さまをご紹介します。日頃よりお世話になっている産業経済部宮下泰昌部長と商工観光課米芳久課長です。

宮下部長　今日は区長との初の懇談会ということで、ぜひ意義のある会にしたいと思っています。

米課長　いつもお世話になっています。よろしくお願いします。

司会者　続きまして、商連役員を紹介します。小泉徳明商連監事です。小泉監事には、昨年の「第1回練馬商人会」以来、ご協力を頂いています。

小泉監事　当初からオブザーバーとして参加させて頂いていますが、毎回年寄りのたわごとのようなことを言わせて頂いています。商売を初めて60年の立場から、なんとか若い方の力になればと思って参加しています。

自己紹介

司会者　それでは若手の皆さん、自己紹介をお願いします。

板倉　私は、栄町本通り商店街の板倉貴志と申します。表具店を営んでいます。職人といったほうがいいかもしれません。初代が牛込区で表具店を開き、大正末期の震災で被災し栄町で商売を再開、私で3代目となります。もとは表装、掛け軸を扱っていましたが、現在は、ふすま、壁紙、カーペットなど内装全般に商売を広げました。

次に、栄町の商店街活動についてですが、理事は全員で15名おり、私も理事として活動しています。私と同じ40代は3人います。どの商店街もそうだと思いますが、平均年齢が高い中、若い人を集めて盛り上げていきたいと思っています。

尾方　尾方英士と申します。私の所属は篠会長の御膝元、平和台中央商店会で、副会長をさせて頂いています。また、商人会の実行委員長も仰せつかっています。水道工事店の2代目です。息子も一緒に働いているので、どの段階でバトンタッチするかを考えつつやっています。

次に、当商店街の活動について申し上げます。地下鉄有楽町線平和台駅を中心とした53店舗で成り立っています。その昔は親会と青年部の2本柱でした。現在は青年部が中心となって活動しています。店舗が並ぶ商店街とは程遠い商店会ですが、地元に密着した活動をいつも心がけています。商店街活動を通じて、会員同士の親睦を深めるとともに地元の方々を大切にしながら、愛される商店街でありたいと考え活動しています。

笠原　笠原宏之と申します。春日町本通り商店会の副会長を仰せつかり、小泉会長のもとで活動しています。家業は美容院で、母から継いで2代目です。母は20年前に他界しております。小さい頃から年配の方々の話を聞かされ、年をとること、生きること、死ぬことについて沢山見聞きしてきました。

現在、私どもの商店街では「ふれあい市場」を毎月1回開催しています。塙町と偶然の縁で結ばれこの市場が始まり、小泉会長と一生懸命やってきました。

しかし、今は区の助成があって何とかやっていますがこの先果たして続けていけるのか、という問題に突き当りました。そこで、NPOを立ち上げることにしました。現在申請中で、間もなく認可が下りる予定です。「練馬区を高齢者の住みたい街No.1にしたい」というコンセプトを掲げて申請しました。

としまえんの御膝元なので、「としまえんスタジアム」への東京ベルディの誘致など、スポーツ振興を掲げたまちづくりにも取り組んでいきたいと考えています。

佐藤　大泉学園町商店会の佐藤公明と申します。小川会長のもとで活動しています。毎回、これでいいのかと悩みながら、頑張っています。

商売は和菓子屋です。和菓子というのは文化です。しかし近年、日本では文化がどんどんなくなってきている。たとえば父の日、母の日、お彼岸、お盆などの年中行事が気薄になっています。是非もう一度、日本人が文化を思い出せるようにできたら、と思っています。

片山　佐藤と同じく、大泉学園町商店会の片山和彦と申します。家業は呉服屋です。父の代から約50年、練馬区に住まわせて頂き、地域のなかでお客様の「呉服屋さんがあってよかった」という言葉を励みに商売をさせて頂いています。

栄町本通り商店街振興組合
板倉　貴志

平和台中央商店会
尾方　英士

春日町本通り商店会
笠原　宏之

大泉学園町商店会
佐藤　公明

大泉学園町商店会
片山　和彦

土支田地蔵通り商店会
冨永　吉宏

意見交換

司会者　それではここからは、篠会長、小泉監事にも加わって頂き、意見交換に入りたいと思います。「地域の特性を生かした魅力ある商店街づくりを考える」のテーマをベースに、幅広い意見、具体的な提案を期待します。

まずはじめに、板倉さんから商店街の課題や将来についてご意見を頂きたいと思います。

板倉　私どもは、今3つの問題を抱えています。どこの商店街にも多かれ少なかれある問題ですが、まず深刻なのが空き店舗問題です。練馬区には新規出店者に補助金をつけるなどご支援を頂いていますが、商売を始めた人への周知が徹底していない印象です。たとえば、空き店舗探しにまず不動産屋に行きますが、そこで「こういう制度がありますよ」と紹介できるよう、不動産業者の組合に働きかけるのはどうでしょうか。また、跡継ぎがいないために無理して商売を続けている方もいます。新規だとコストがかかりますが、「居抜き」というか、他人でもやる気のある人が事業を引き継ぐという制度があればいいなと思います。

2つ目は、今商店街が何もしないとますますじり貧になっていく。だから何かやらなくてはということで、私どもは区や都のご指導のもと、勉強会を行っています。商店街にある空き店舗を利用し、「ゆうゆう広場」と名付けた高齢者から子どもまで楽しめるスペースを作ろうと考えています。産直野菜の販売や地域に住む子どもや高齢者が、幅広く交流できるモデルスペースを提供できればと思っています。しかし、いかんせん開設費用に対して収入が見込めない。うまく運営できる方法はないかと検討しているところです。

3つ目は、最近どこもそうですが、商業地で廃業したり代替わりしたりした後に戸建ての住宅やワンルームマンションが建つケース、商店街としての連続性が保たれなくなっている状況が多々見られます。私どもの商店街は駅に近く、容積率や建蔽率が緩和されているので、投資目的の住居にすれば部屋数が増やせます。そこで、店舗にせず住宅にするケースが多く見られるわけです。現在、せめて一階部分は店舗にするという申し合わせができないか、と働きかけているところです。

それから、江古田地区の地域特性として、音楽大学や芸術学部があり芸術関係の学生、音楽や絵画や演劇をめざす学生が多くいます。有名な劇団の本部や稽古場もあります。そういう特性を踏まえての理想としては、下北沢のように劇場があれば、学生も使えるし、街おこしの核にもなるのではないか。劇場を中心とした形で江古田地区が発展できたら理想的だと考えています。

先程、笠原さんの発言にもありましたが、私どもにも「高齢者に優しい商店街をめざそう」という思いがあります。息子が帰国子女が多い学校にかよっているのですが、海外から帰ってきた学生が今の日本の何に驚くかというと、子どもが少ないことです。街を歩くと高齢者が目立つ。練馬区は比較的若い家族が多いのですが、高齢者にも若い世代にも住みやすい商店街、そして練馬区になればいいなと思います。

司会者　商店街の連続性の確保を含む空き店舗問題、江古田の特性を生かした劇場作り、そして、高齢化への対応など3点の意見が出ましたが、志村区長、いかがお考えでしょうか。

志村区長　江古田の空き店舗については、3～4年前に子育て支援事業に貸しています。私も現場へ行ったことがありますが、あいう利用の仕方であれば違和感ないんじゃないでしょうか。

普段の商店街活動のなかで、閉店廃業の話があれば商店街の連続性を理由に説得することはできるかもしれません。周りの商店の方も、協力する姿勢がほしいですね。そうでないと、私有財産ですからどう使おうと区は文句は言えません。でも、「商店街の連続性は大事だから守ってほしい」ということは言える。区にはそういうニュースが入ることは少ないから、むしろ地域の問題として扱ったほうがいいと思います。

宮下部長　空き店舗が増えているということで、その解決のため区は補助金を出していますが、今ひとつ徹底していないという話がありました。そこで、私どももいろいろ考えておりまして、たとえば空き店舗を探している人は街をうろうろしているはずなので、「ここが空くので、借りたらどうですか」と声をかけるとかいろいろと考えてはいますが、周知の方法を含めもっと考えていかなきゃと思いました。

「居抜き」というのは面白いアイディアですね。居抜きならラッキーという人がいるかもしれない。2か月後にやめる喫茶店があったとき、喫茶店をやりたい人にその設備のまま渡せますよと。そういう仕組みを考えられたら面白いですね。今後研究していきたいと思います。

もう一つ、商店街が戸建てに代わる話について。小さな商店が多く、間口が狭いですよね。既存のものだと、併用住宅で玄関と店が一緒で、店をやめても1階だけ貸すとなると、人様の店の中を出入りすることになるので1階だけ貸すことはできない。自分は上に住みたいけれど、間口が狭いために玄関を別につくれない。実は区に「地区計画」という制度があります。これは、みんなで話し合って決めれば、1階は店舗にと強制することもできる制度です。

板倉　再来年から始まるそうですね。以前、8軒分の空き店舗から3棟の建売ができました。5年前に、ワンルーム間口14軒だった借地にはビル4棟が建ちました。商店街がとぎれとぎれの状況です。不動産業者が入り地主が変わってしまうと、商店街にはなすすべがないんです。

宮下部長　「やめてください」とは言えませんからね。だから事前

にみんなで約束をしなくちゃいけない。協定に基づいて、「1階は店舗にすること」と決めれば、所有者が変わっても守らなくてはいけませんから。でもそれをすると、皆さんにも制約がかかります。住宅にしてはいけない、という決まりを皆さんも受け入れられるかどうか。制度的な仕組みはあるので、是非話し合ってください。そのうえであれば、法的に守る方法はあります。音大通りでは、そんな議論をしたそうです。

板倉　3年くらいでできると聞いています。すでに建ててしまったところは遅いんですよね。

宮下部長　これからは出来ます。それから劇場スペースについてですが、「江古田ユニバース」という若者がやっているお祭に行き、江古田の街を半日ぐるぐる回りました。江古田の街を回って改めて驚いたのは、喫茶店が多いこと。隠れたところに喫茶店や、小さなギャラリーがある。

先日、演奏会で武蔵野音大に行きましたが、あそこにはベートーベンホールがあります。日大芸術学部にも類似の施設がきっとありますよね。そういった、既存の施設、ギャラリー、喫茶店あるいは音大、日大、武蔵大とコラボすることも考えられます。必ずしも、本多劇場のように1か所でなくてもいい。既存施設を使うだけで、江古田はまだまだやれることがいっぱいある。まさに、地域の特性を生かしてということであれば、生かせる江古田の特性はいっぱいあると思います。私も、とても魅力的な街だなと改めて感じました。だからまず皆さん自身がいろんな発見をしてくれると、面白いなと思いました。

司会者　話題を変えて。笠原さんの商店街ではふれあい市場をやっています。これを含め、高齢者対策についてご意見を頂けますか。

笠原　私が考えているのは、高齢者の居場所についてです。普段街を歩くと、居場所がなくどこに行ったらいいかわからずボヤーッとしている高齢者をよく見かけます。美容院という業種柄、洗濯が間に合わないとコインランドリーに行くのですが、銭湯がオープンする前からコインランドリーは高齢者でいっぱいなんです。何するわけでもなく、おしゃべりをして銭湯が始まると解散となる。そういう姿を見て、年をとったとき楽しくみんなと安らかに過ごすにはどうしたらいいだろうか、と考え込みました。

高齢社会では、何といっても健康が第一です。そこで私は食の勉強を始めました。そして、食を通じ何をしたらいいのだろうかと考えました。それがNPOつ繋がっていきました。NPOで何をやりたいかというと、高齢者がコインランドリーのかたい椅子に座るのではなくサロン的な場所に集う、そんな井戸端的な場がつくれたらいいな、と考えています。

小泉監事　ふれあい市場は、区にご支援を頂いたおかげで7年目に入りました。塙町との関係もうまくいっており、今後も続けていければと思っています。

先ほど、空き店舗の話がありましたが、塙町の方の話では、林業ができる人を募集したそうです。どうやるのかと尋ねたら、インターネットで募集するんだと。山の中なので、ある程度生活できないと困るので、生活費16万円と軽トラックを支給、住居も3年間無料で貸す。応募がどんどんネット経由で来て決まったそうです。一人は神戸在住の方、もう一人は町田在住の方だと伺いました。8月に現地を見たんですが、ゆうゆうランドより8キロも山の中なんです。正直、こんなところに誰が来るんだろうと思っていたら、結構応募があったというのでびっくりしました。

そこで、空き店舗の問題ですが、インターネットで募集したらどうでしょうか。募集方法や条件はいろいろあるとしても、たとえば年に3回インターネットで「こんな商売ができる人を募集」と募集をかけてみたらいいのでは。区でやるか商店街単位でやるかなど、話を煮詰めて実現できたらと思います。

米課長　高齢化についてですが、平成22年3月に商店街の実態調査を行いました。商店街が抱える問題と今後の課題について区民に質問したところ、高齢者問題をどうするかが1位でした。やはり、そこを一番に考えていかなきゃいけない課題だということです。どうしたらいいかは、地域の状況で変わります。駅から近いか遠いか、住宅が多いか少ないか、実態に応じて展開したらいいと思います。

もう1点。平成24年9月から、買い物支援のモデル事業を2地域で始めました。石神井公園商店街とNPO「ウェルカム」が、出張所のような形で店を出す。4商店街にご協力頂いて出品しています。そこで改めて認識したことは、現在の高齢者の生活スタイルは、我々が頭で考えているのとは大きく違うということです。お店のないところに出店したので、「こういうのを待っていた」という声が非常に多い。買い物弱者という課題は、商店街だけで解決するのは困難です。ほとんど儲けになりません。そこで、NPOにご協力頂いて解決するという、コミュニティビジネス的な形で行なっています。お手伝い頂いているNPOは、もともと「猫の手サービス」をやっているところです。布団が一人じゃ干せない、電球をかえられないなど、高齢者の相談にのったり困ったことをお手伝いしたりというサービスです。それと買い物支援を抱き合わせでやってもらう。抱き合わせることでリスクが減ります。そういう形で始めた事業です。現在、近場の高齢者、特に一人暮らしの方を含め、拠り所としてサロン化しています。一人住まいということで、その場で食べていこうとする方が多かった。「ランチがあったほうがいい」「物菜のほうがいい」という人も多くいました。今後、このような形で商店街に対する需要も増えていくと思います。

NPO立ち上げの話がありましたが、NPOだけが目的ではなく商店街の活性化にも貢献できる機能になっていくと、よりいい形になって広がると思います。

2025年問題も課題です。2025年、団塊世代がすべて75歳になります。医療を使う人が多い年代になるということです。もう一つは、単身者が今以上に増えていくことです。男の独居者が3割を超えていくんじゃないかという見込み数値が出ています。買い物弱者がより多くなるということです。しかも、その地域は首都圏に集中する。東京、埼玉、神奈川、千葉、この10年で大幅に変わるでしょう。公園に行っても子どもがおらず、高齢者が圧倒的に多くなります。商店街を含め今後高齢者問題はより一層重要性を増すと思いますので、将来の見通しを立て活動する必要があります。是非、いろんな形で意見を出し合いご検討頂ければと思います。

志村区長　高齢者が増えることは間違いありません。私がまさに独居の高齢者です。妻はとっくに亡くなって一人で生活しています。私は昭和7年生まれの80歳。それでもぴんぴんしています。でも、周りが年寄りばかりになったら寂しいですね。

今、課長が申し上げたように、どのくらいの人が高齢者になるか見込み数値はわかっています。そうすると、高齢者の居場所づくりも大きく変化していくんじゃないかと思います。そこで、高齢者をどうするかの問題ですが、区の広報にも限界があるんです。区報でずいぶん細かい情報を提供しているつもりですが、読まない人には情報が何も伝わらない。そこで、コインランドリーで時間をつぶし合う。そういう場所に人が集まる。仲間、話し相手がほしいんでしょうね。高齢者の生き方、在り方という課題で、行政は考えなきゃいけないと思います。

総括

司会者　議論も煮詰まってまいりました。ここでまとめの発言を、佐藤さんお願いします。

佐藤　大泉学園町商店街は、地下鉄が10～15年後に来るということで、期待を寄せています。地下鉄がくると便利になります。ただ、便利になると都心に出て買い物をして、商店街が過疎化する。これじゃいけない。10年の余裕があるので、その間に商店街に何ができるか考えなくてはいけません。出ていく街を作るのではなく都心から入ってくる街にしなくちゃいけない、それを考えているところです。そのなかで、地域の特性を生かすことは前々から考えていました。地域特性を考えることがどんなに大切か、区長がおっしゃいましたが、私もまったく同じ考えで活動しています。

文化についてですが、大泉には、藤沢周平(故)、松本零士、本城敬といった作家、漫画家、音楽家諸氏が住んでいます。そういう人たちが住んでいるなら、そういう人たちが住まうのに適した街づくりをすればいいじゃないか、と考えたのがはじまりです。そういう人たちを文化人と呼ぶのなら文化とはなんなのか、そこを突き詰めていくと文化とはクリエイトすることだと。その時代に何かを作り出した人が文化人。じゃあ私たちは、夢のある人を世に送り出す手助けをしたらいい。空き店舗に絵を展示したり、作家の作品を展示する場所を作ったりしていこう。ただ、みんなで頑張ろう力を合わせようといっても、商店街に力がなくなってしまっています。どうしたらいいか、それは、もう一度原点に戻ることです。駅もない場所にあれだけの商店街がありますが、住んでいる文化人が不便だからということでできた商店街なんです。私たちがやらなきゃいけないのは、そういう特性のある自分たちの街をつくることです。文化人がいるならどんどん応援して世に出す。そうするとあそこの商店街は夢のある人を応援してくれるよ、ということが世間に広まる。そうするとどんどん文化人が集まってくれるかもしれない。「今日は片山の家で展示してやってくれ」「ここではあの人の作品を展示してくれ」と。あっちこっちに場所があるならそれを利用すればいい、作り出せばいいんです。イベントも大事ですよね。毎日開催すると、毎日がお祭になる。あの町にいったら面白いぜ、と必ず電車に乗って来てくれるに違いない。そういう街づくりをしていきたいと思っています。

高齢者だって財産だと思います。高齢者でまちづくりすればいい。私たちの商店街がそういうまちづくりを目指すので、ぜひ練馬区も特性ある地域づくりに力を入れてもらいたいのです。どの地域にもいろんな特性がありますが、「そういう商売だったらこの地域が合ってますよ」という紹介の仕方をして頂きたい。行政が後押ししてくれると、本当にありがたいです。空き店舗を紹介するにしても、「キミにはここが合っているよ」という紹介の仕方が大事。特性が特性を産むというか、特性があれば、たとえば文化人なら「文化人饅頭をつくろうじゃないか」と言い出せる。野菜だって肉だって、特性にあった一店一品が作れる。地域の特性を生かすとは、そういうことじゃないかと思います。特性はすでにあるんです。宮下部長が、江古田に行って驚いた、という話をされました。住んでる人は気づかないものなんです。だから、部長がそれを発見されたなら是非すすめてほしい。江古田はこういう街だ、ともっと広めて頂きたい。そうすれば、江古田に住む江古田に興味持つ人が集まる。それからは商店街の出番です。努力してその人たちに合った魅力ある店づくりをし、商品をそろえなきゃいけない。過疎化してから頑張るという今までとは逆の発想で、地域から商店街をつくっていくのがいいと思います。

NPOをどんどん巻き込むのもいいですね。団塊世代だって、会社を出たなら、今までおさえつけられてきたものを地域で発揮してもらう。高齢化は恐くない。自由な時間が増えただけなんです。高齢者がいるのは悪いことじゃない、いいことなんです。その人たちにどう協力して頂くかを、今、私たちが考えなければならないことではないでしょうか。

志村区長　高齢者にも、自分が生きていく考え方、方針をはっきりお持ちの方は沢山います。区の施設を使って体操をやっている方もいる。図書館に行く人もいる。いろんな過ごし方、施設の活用の仕方があります。せめて区報を読むぐらいはしてほしいのです。区報の情報を日常生活に生かしてほしいと思います。知らないがために生活の仕方がしぼんでいくのは不幸なことです。

大泉学園町が文化の街という話ですが、昨日、奇しくもある方が私のところにいらっしゃいました。大泉を文化のまちにする、そのために会館を作ってほしいというお話でした。共感するところが沢山ありますが、私はむしろ、ブロンズ像を街中に沢山設置するなど、街に文化の匂いがするようなことを考えたいんです。街づくりを進めていく中で、取り込めるのであれば取り込んでいきたいという考えを持っています。

佐藤　お金をかけるばかりが能じゃないですよね。人の和をいかにつくっていくかが大切だと思います。和菓子のワは、輪であり、なごみの和です。私は自分の商売が大好きです。微笑んでもらえる和菓子作りを目指して商売しています。和、絆、すごく大事ですよね。つながりをいかに作っていくかが、これから一番大事になっていくと思います。そのために、練馬の商店街の人たちはあちこち行って勉強しています。「この地域はここが強い」という地域の特性をもう少し洗い出し見つけたいですね。

司会者　地域の特性を大事にして商店街づくりに活かす、という意見を頂きました。商工観光課発行の『ながさす』vol.32で、私が所属するサンツ中村橋商店街を特集しています。練馬区立美術館とコラボして、フラッグを掲げています。アニメ会館の話が出ましたが、私どもは3年計画で、美術の森緑地公園ファンタジーミュージアムズと銘打って、動物の彫刻のある公園にしようと考えています。地域に美術館があってよかった、と言って頂けるものを目指しています。美術館と提携して、アートの街にしていこうというわけです。地域特性を採り入れた商店街にしていきたいと考えています。

お待たせしました。篠会長、ご発言を。

篠会長　志村区長、宮下部長、米課長から大変参考になるお話を頂きました。今お聞き頂きましたように、実行委員は、商店街を背負って立っているメンバーです。佐藤さんに総括的にまとめて頂いたとおりで、足元をもう一度見直すことが必要です。地域の特性を確認し、自分のまち、自分の商店街の魅力を見直しながらお互いに意見を交換し補い合って生かしていく。先輩が築いてきた商店街のよさを、再度、皆さんが確認し再構成して頂きたい。商店街の再生です。こんな大変な時代ですから、志村区長にはこれからもご指導頂き、私どもも努力していきたいと思います。

商人会は誕生してまだ1年少々です。是非これからも区長との懇談会を開き大いに意見をまじえながら、商店街づくりにまい進しなければならないと思いました。まだまだ話したかったこと聞いてみたかったこともあると思いますが、また時間を作って頂き、懇談する機会をお願いできればと存じます。本日はお忙しいところ、誠にありがとうございました。

メッセージ

司会者　最後に、志村区長、宮下部長、米課長から、一言メッセージを頂きたいと存じます。

志村区長　今日はお招き頂いたものの、皆さんの思う方向のお話しができたかどうかわかりません。しかし、私どもは頂くところが多くありました。行政は行政で、自分たちはずいぶんいいことをやってると思っている。でもそれは、もしかしたら独りよがりかもしれない。そこで、皆さんから話を伺う。すると私たちも、今まで気づかなかったことに気づきます。行政に取り入れなければならないことを、今日は随分教わったと思います。これからもぜひ懇談会を続けて頂ければありがたい。話し合いの中で、商店街の繁栄と行政の繁栄とを結び付けて考えれば、いいものができるんじゃないかと思います。

20日前の朝日新聞にどこの街が住みやすいか、というアンケートの結果が載っていました。「住んでよかった街」で、練馬区は10番目でした。それだけの評価を頂いたのだとすると、私は区長としてありがたい。これもいい、あれもいいと思う練馬の良さ。私の中ではその一つに、商店街の発展が入っています。お互いにとって話し合いはいいことですから、これからもよろしくお願いします。

宮下部長　実は数か月前、中小企業を支援するある著名なビジネスマネージャーの話を聞きました。そのわかりやすい言葉の一つが、企業を振興させるためには、第1にセールスポイントを探せ、第2にターゲットを絞れ、そして第3は連携しろ。この3つが再起のカギだと。今日思ったのは、まさにこれと同じかないということです。商店街の目で見て、まずその地域にとってどんなものがセールスポイントか、他の人の視点から探していくのがいいのかなと思います。

何をターゲットにするか。江古田なら若者なのか、大泉なら文化なのか、春日町は高齢者なのか、豊島園は若者にするか、ターゲットを絞ることが必要ですね。絞ったら、一商店街では対応できないので、商店街同士でコラボすることも必要でしょう。それぞれの商店街のセールスポイントがなんなのか、もう一度見つめ直す大切さを改めて感じました。私どももそういう支援をしていきたいと思います。

米課長　いろんな意味で、皆さんが地域の核になっているんだなと改めて感じました。商店会から区のほうにどんどん言って頂ければ、何か提供できるものがあると思います。遠慮なくお声掛け頂ければと思います。

区長は、練馬区内17地域で区民とのふれあいトークを展開中で、すでに2か所を終えました。区長がやっていること自体が地域の特性を生かすことです。江古田は3大学と連携し商店街と自治会が集まって相談しています。皆さんがやっていることは今後もそのまま生きてくると思います。私どもも、そのお知恵を頂きたいと思います。

謝辞

司会者　ありがとうございました。私どもは、今日の志村区長との懇談で大いに勇気づけられました。それでは尾方委員長、謝辞をお願いします。

尾方　今日の懇談会を通じて、商人会のやるべきことが見えた気がしました。まだまだ道半ばですが、地域とのふれあい、次世代の商店主の後押しを目指して頑張っていきたいと思います。

本日は志村区長、宮下部長、米課長、そして篠会長、小泉監事、江村副会長、本当にありがとうございました。